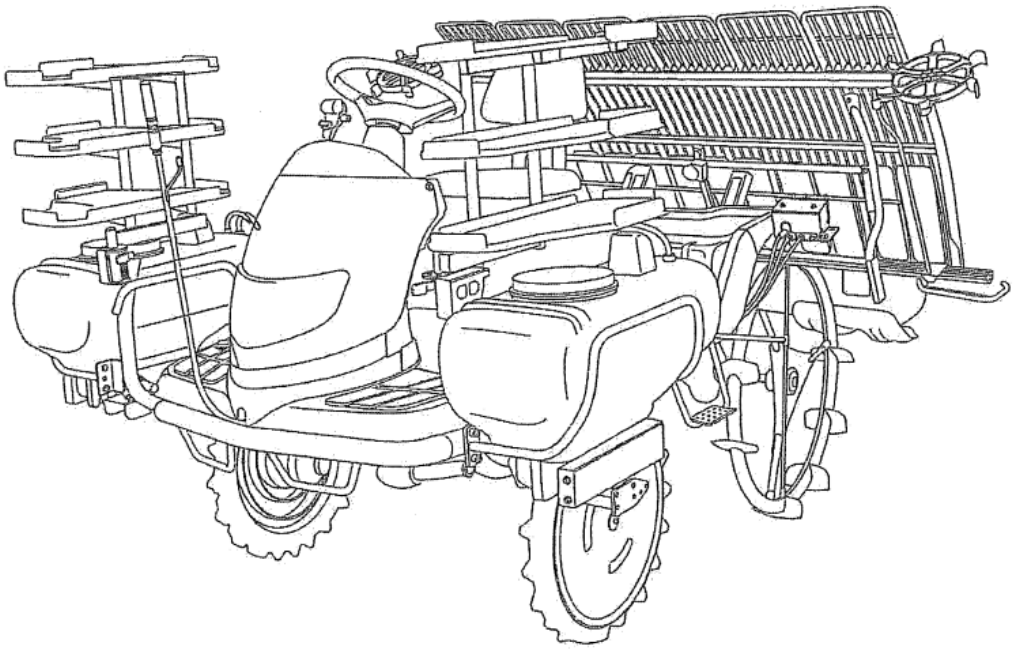
ペースト施肥機

取扱説明書

LR103DP



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

施肥機重要ポイント

1. 移動やトラック運搬するときは、

肥料を抜いて行います。

---

2. 施肥機を点検整備するときは、

必ず安全な場所で、エンジンを停止して行います。

---

3. 補助者と共同作業を行うときは、

合図をし状況を確認します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも、本文の中で作業上ぜひ守っていただきたい事項を ⚠ を付して説明のつどとり上げております。
さらに、田植機の取扱説明書とあわせて、よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

重要なお知らせ

- このたびは、三菱施肥機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、肥料散布のための作業機として使用してください。
  改造や使用目的以外の作業はしないでください。
  改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。
  （詳細は保証書をご覧ください。）
- 三菱マヒンドラ農機株式会社（以降当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、三菱施肥機（以降施肥機と記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または障害に対しては一切責任を負いません。
- この施肥機の取扱上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項や施肥機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
  よって、施肥機の操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および施肥機本体に表示されている事項に限らず、事故防止対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 施肥機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいうまでもありませんが、他方、日常の取り扱い、整備いかんによることも、また看過できません。
- この施肥機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この施肥機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の施肥機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本施肥機を譲渡または貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を施肥機に添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容は施肥機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本施肥機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、施肥機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は版権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複写、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買い上げ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買い上げ先」へお問い合せください。

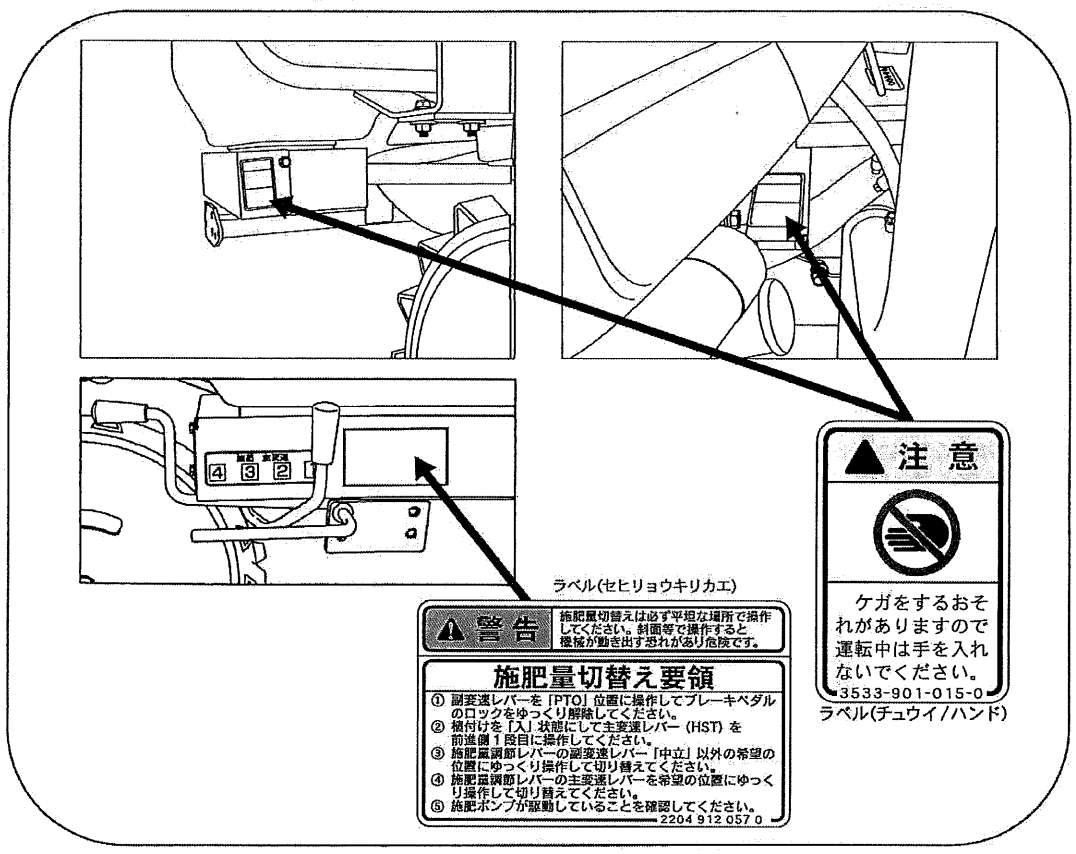
表　示	重　要　度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しております。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものをしめしております。
重要	製品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。 よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

安全のポイント

安全表示ラベルについて

■ 本機には、安全に作業をしていただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
■ 安全表示ラベルが破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。安全表示ラベルは、お買いあげ先へ注文ください。
■ 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
■ 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルをお買いあげ先へ注文してください。
■ マークには、洗車時に直接圧力水をかけないでください。

安全表示ラベル貼付位置



警告 ■ ノズル深さを調節する時は、エンジンを停止し、感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にして植込杆が停止してから、ノズル深さ調節レバーを操作してください。

警告 ■ 肥料はほ場に入ってから供給してください。
● タンクに満載したまま傾斜地をおりますと、バランスを崩し転倒するおそれがあります。

危険 ■ 使用する肥料等はその説明書に従ってください。
● 薬剤を混和して使用する場合は、薬剤の使用方法及び使用上の注意をよく読んでから行ってください。
● 肥料の保管は、小児の手のとどかない所で容器のふたを固くしめて保管してください。

保証とサービスについて

■商品の保証

この商品には、保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

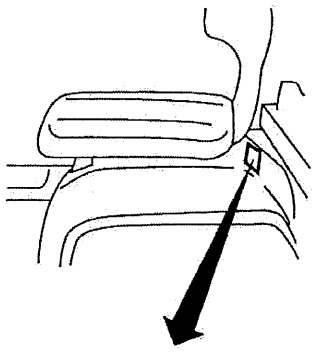
■サービスネット

ご使用中の故障やご不満な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げ先へお気軽にご相談ください。

その際、

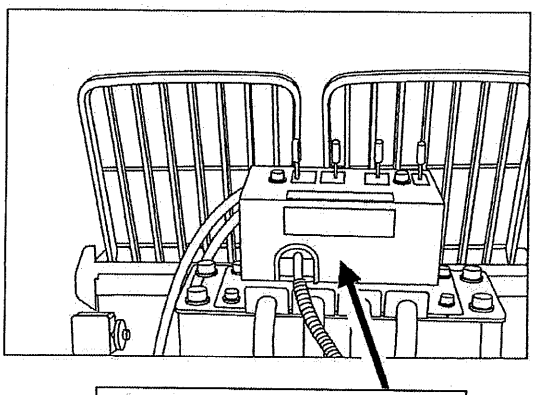
(1) 田植機販売型式名と製造番号
(2) 施肥機販売型式名と製造番号
をご連絡下さい。

田植機販売型式名と製造番号



〔販売型式名と製造番号〕

施肥機販売型式名と製造番号



施肥機販売型式名と製造番号

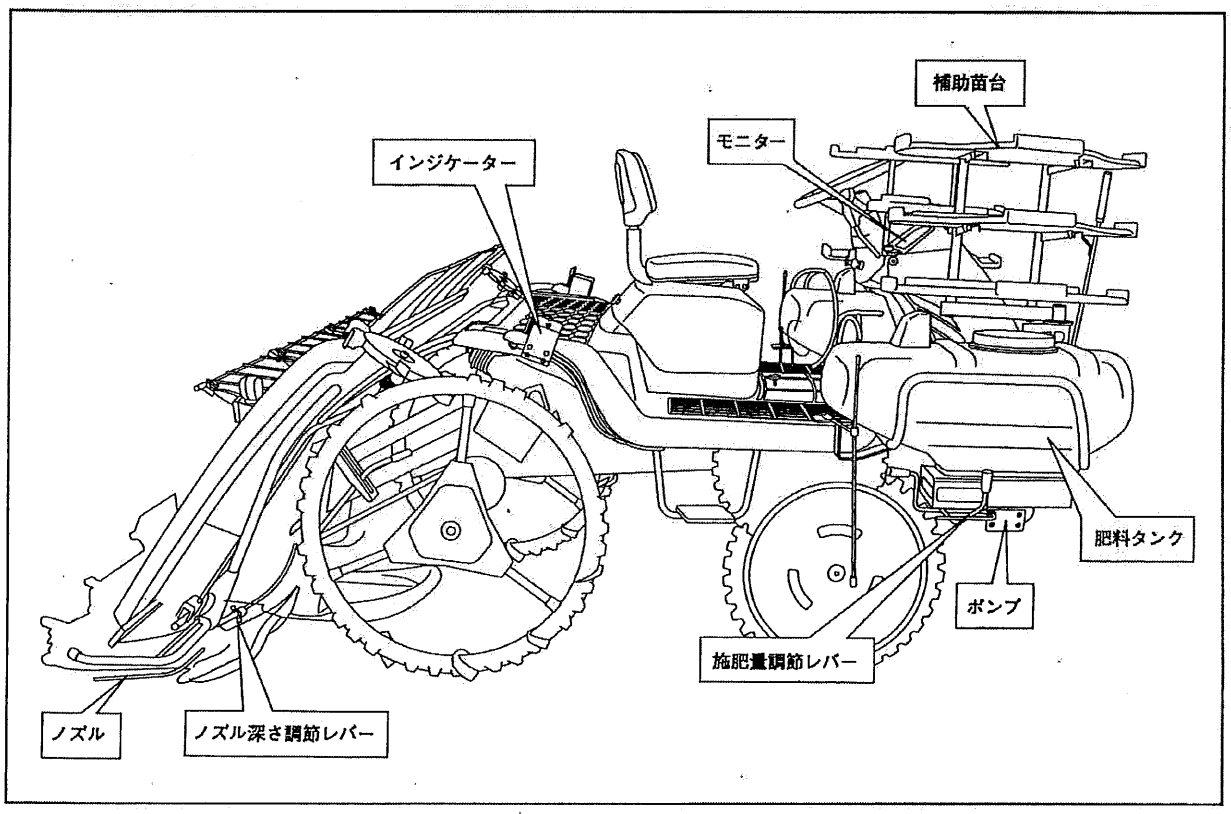
■補修用部品供給年限について

この商品の補修用部品の供給年限(期限)は、製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

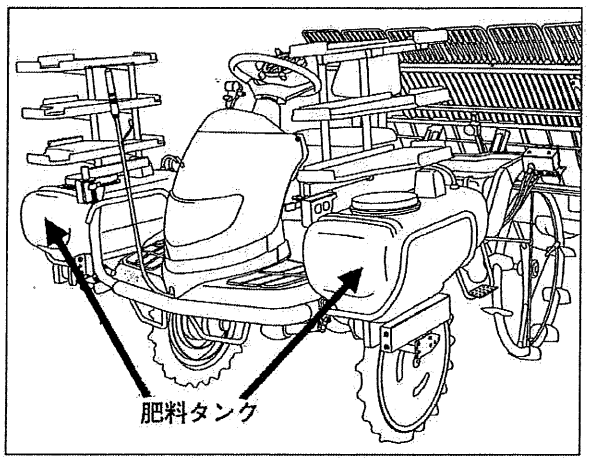
各部の名称とはたらき

各部の名称

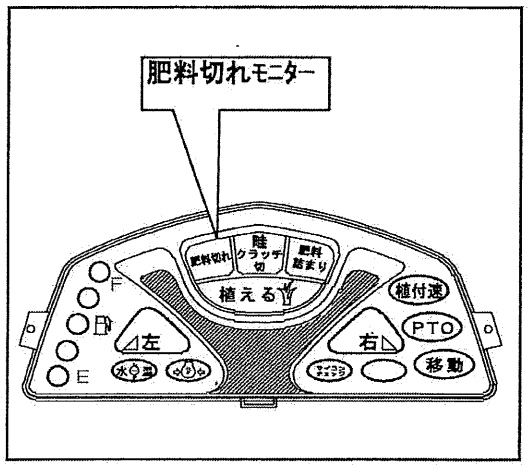


各部の名称とはたらき

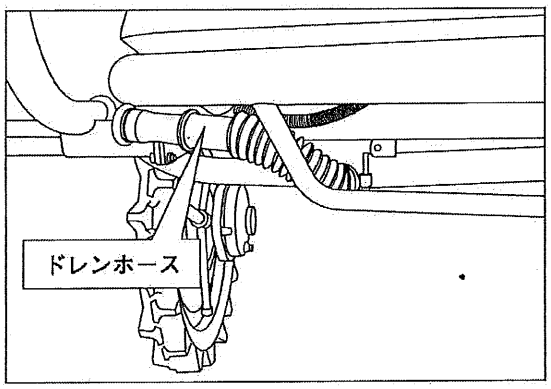
■肥料タンク
・ペースト肥料を入れるタンクです。



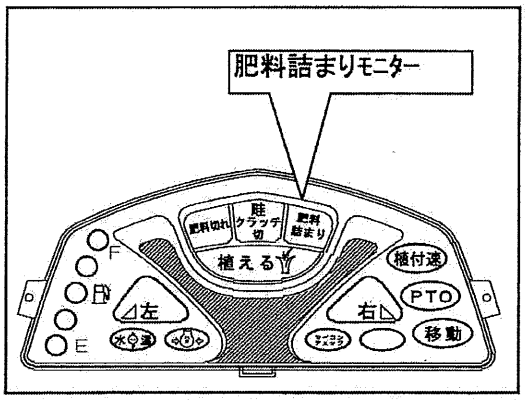
■肥料切れモニター
・肥料タンクのペースト肥料が減ってくると、ブザーとモニターで警告します。



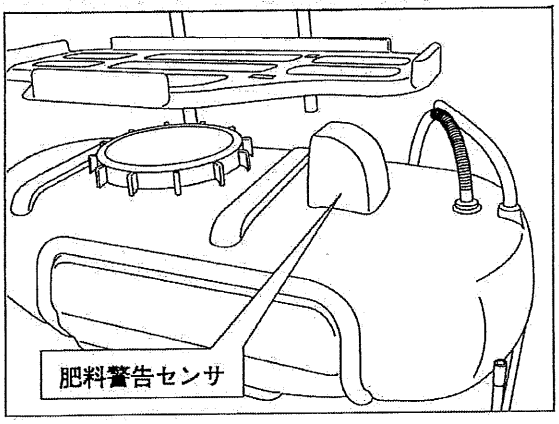
■ドレンホース
・肥料タンクに残ったペースト肥料を抜き取ります。



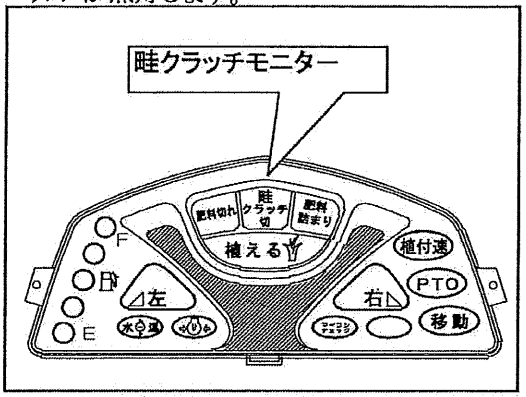
■肥料詰まりモニター
・肥料詰まりをブザーとモニターで警告します。



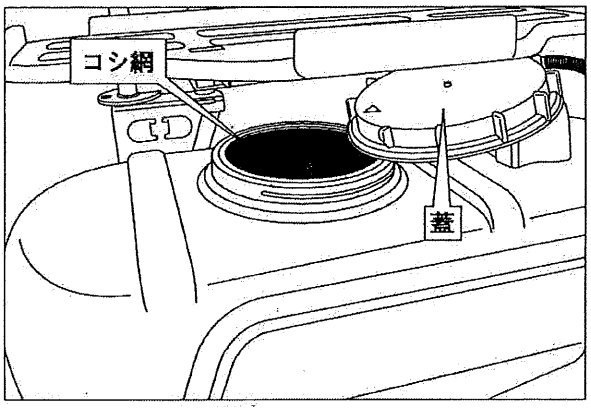
■肥料警報センサ
・肥料が残り少なくなったことを感知します。



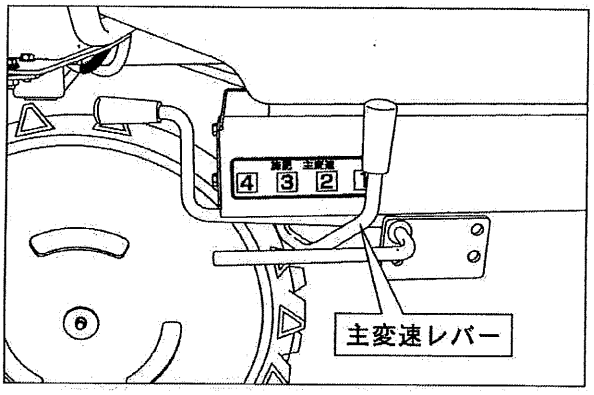
■畦クラッチモニター
・施肥切替レバーを「施肥停止」位置にすると、ランプが点灯します。



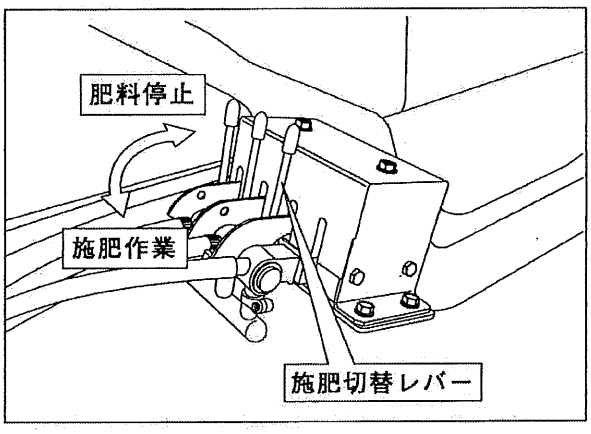
■肥料供給口
・タンク上面に肥料供給口があり、蓋を開けてコシ網を通して肥料を供給します。



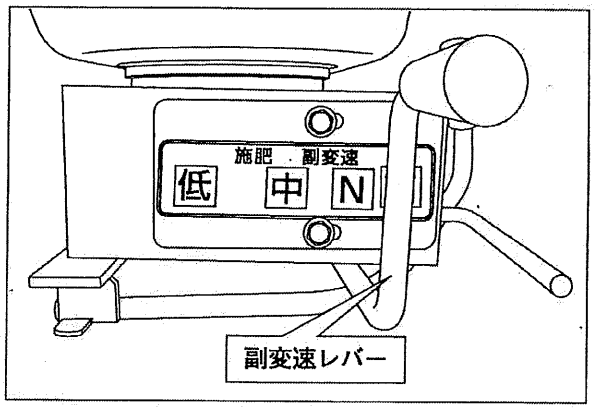
■主変速レバー
・施肥量の切り替えをするレバーです。レバー操作により施肥量が4段階に変えられます。



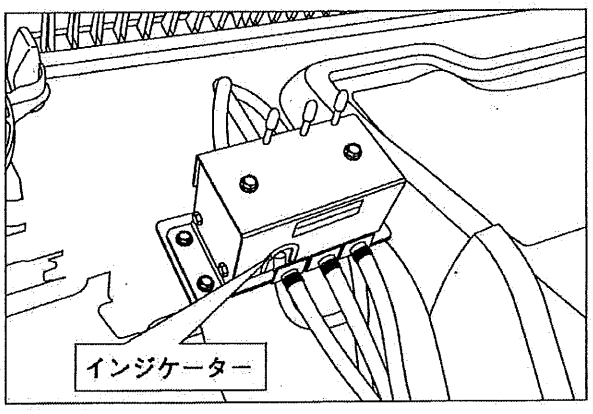
■施肥切替レバー
・「施肥停止」「施肥作業」の各位置に肥料の流れを切り替えます。



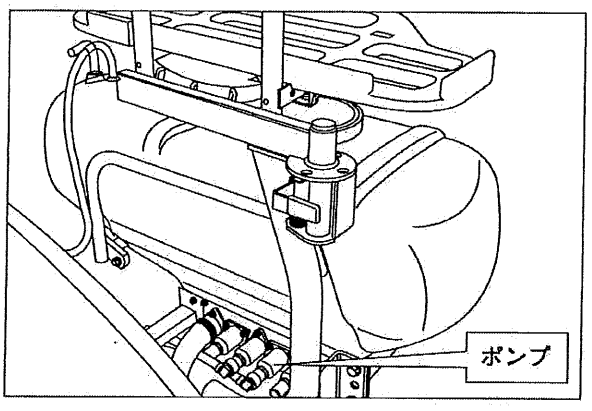
■副変速レバー
・施肥量の切り替えをするレバーです。
レバー操作により施肥量が3段階と施肥の停止が選択できます。



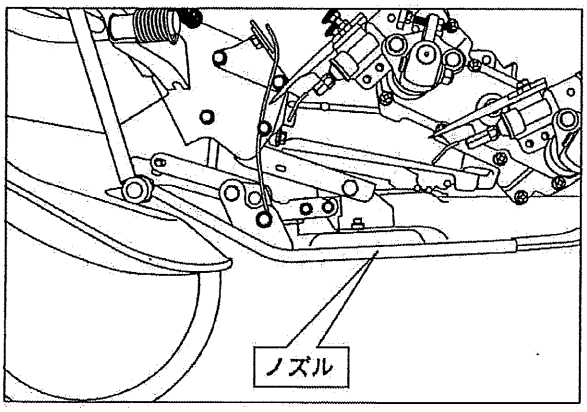
■インジケーター
・施肥の状態をチェックします。



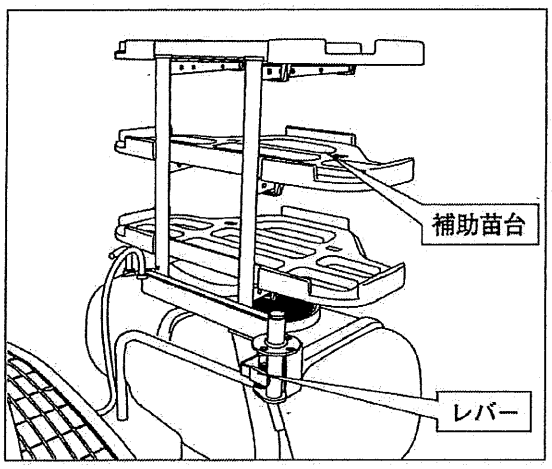
■ポンプ
・ペースト肥料を送り出します。



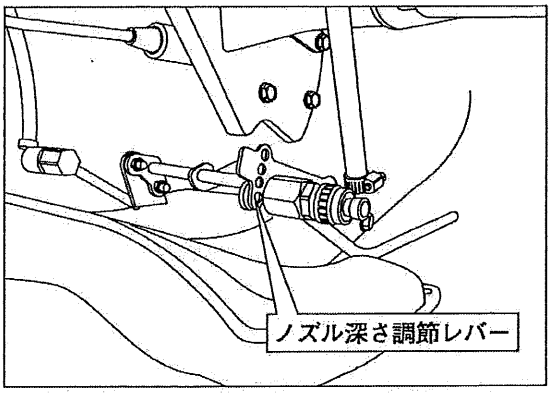
■ノズル
・施肥を土中に撒きます。



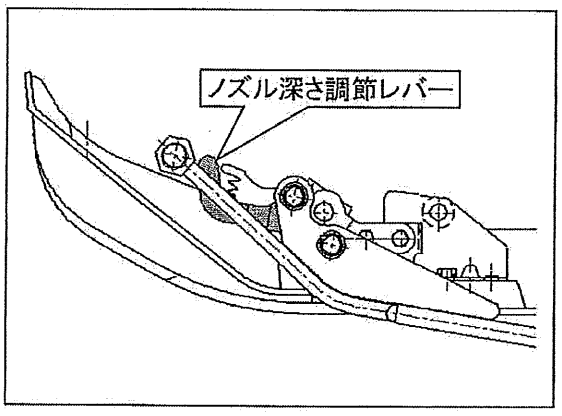
■補助苗台回動
・肥料供給時に回動します。レバーを下げると回動可能となり、上げると固定します。



■ノズル深さ調節レバー(中央２条のみ)
・ノズル深さを「3cm、5cm、7cm」の3段と「収納」の位置にセットできます。



■ノズル深さ調節レバー(中央２条除く)
・ノズル深さを「3cm、5cm、7cm」の3段に調節



作業前の点検

故障を未然に防ぐためには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさずおこなってください。

⚠ 警告

給油、注油及び点検整備するときは、次のことを守ってください。

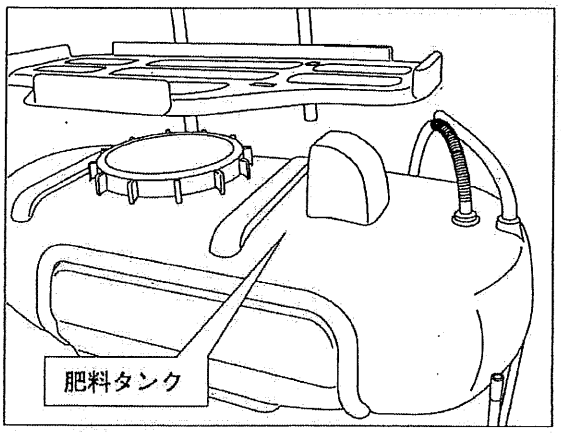
(1) 田植機を平たんな広い場所におく。
(2) エンジンを停止する。
(3) 駐車ブレーキをかける（停車ペダルを踏み込んでロックをかける。）
(4) 植付部をおろすか、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にして植付部の油圧を固定する。
(5) エンジンなどの過熱部分を充分冷やす。
(6) くわえタバコなど火気厳禁。

以上の安全を確認して行ってください。
安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

点検箇所と点検のしかた

重要

● 肥料タンク内部に古い肥料や異物があれば取り除いてください。肥料詰まりの原因になります。

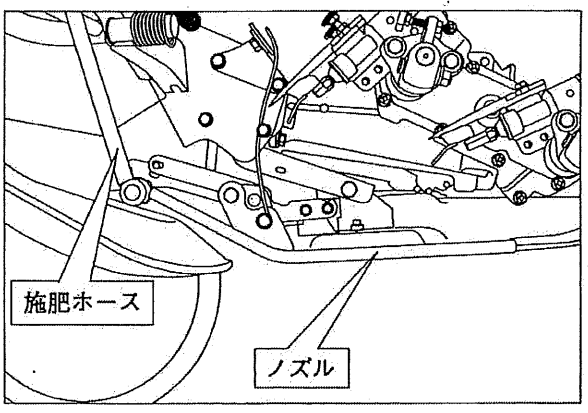


重要

● ホースに肥料や異物の詰まりがないか確認し、詰まりがあれば取り除いてください。

重要

● ノズルに肥料や泥等が付着していないか確認し、付着があれば取り除いてください。肥料詰まりや植付姿勢が悪くなる原因となります。



運転のしかた

⚠ 警告

(1) 始動する前に安全カバー類が取り付けてあるか確認してください。

(2) 室内でエンジンを始動するときは、窓を開けて換気を十分に行ってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。

(3) エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。

(4) エンジンを始動するときは、周囲の人に「声」をかけ合図してください。

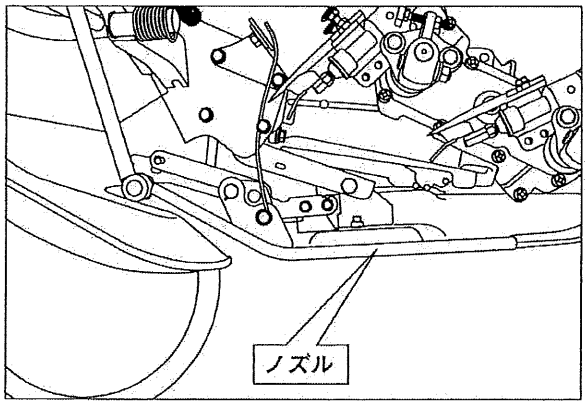
移動、運搬のしかた

重要

●肥料タンクに肥料を入れたままの移動はさけてください。

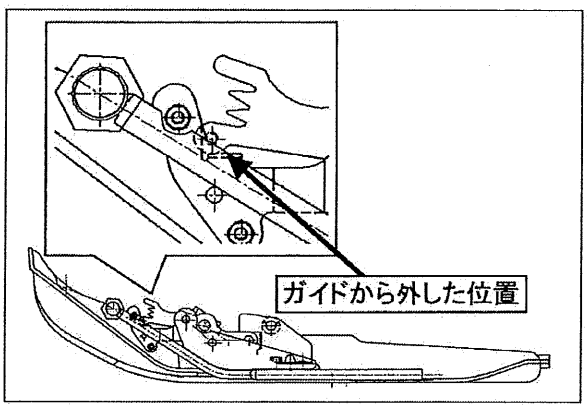
●移動する場合は，植付部を上げてノズルが路面等に当らないようにしてください。

●ほ場への出入りや畔越えをするときはノズルを引掛ないように注意してください。



■ノズルの収納

・トラックで運搬するときは、フロート底面からノズルが出ないよう、ノズルと深さ調節レバーを右図の位置に操作し、ノズルをあげてください。



■運搬中の固定方法

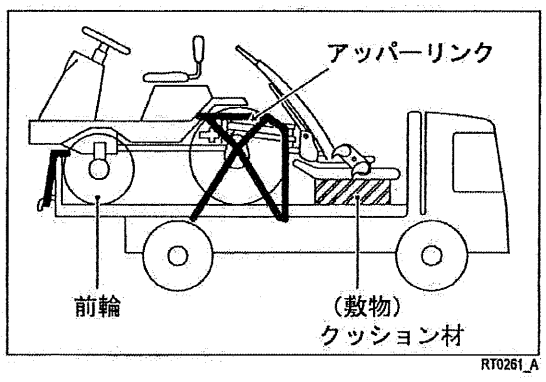
(1)前輪を車の後部に引き付けて、ロープで固定してください。

(2)後輪をロープでたすき掛けにして固定してください。

(3)フロート下に敷地を置き、植付部を下げてアッパリンクをロープで軽く押さえてください。

(4)副変速レバーを「植付速」位置にしてください。

(5)停車ペダルを踏み込みロックしてください。



重要

●凹凸道はさけてゆっくり移動してください。

●肥料や苗を積んだままの移動や自動車などへの積みおろし、運搬はさけてください。

●運搬するときは、施肥機の部分には絶対にロープ掛けしないでください。

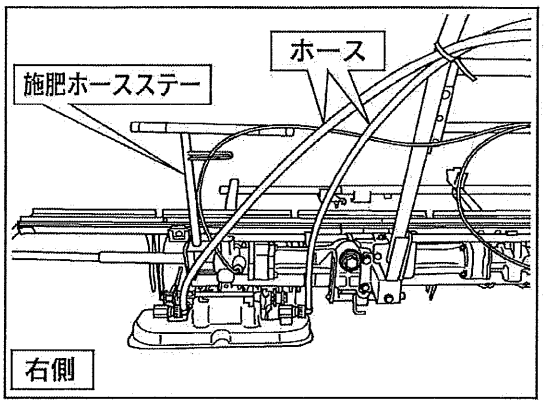
■移動・運搬のしかた

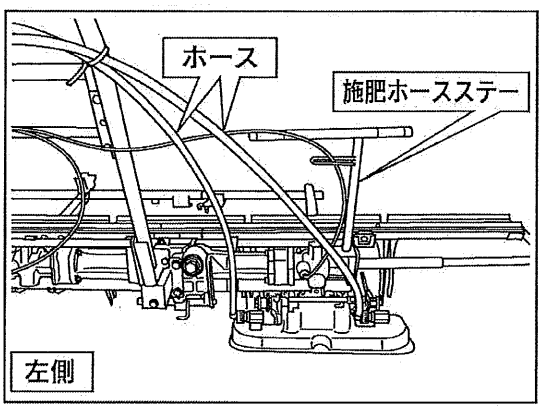
・植付部は、移動・運搬のとき左右の2条を折りたたむ構成になっています。

（折りたたみかたは、取扱説明書本機編の63ページを参照してください。）

折りたたみの際、ホースに折れ・つぶれ・ひっかかりがないことを確認してください。

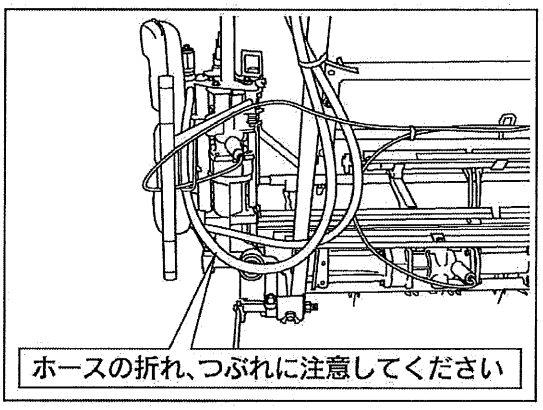
作業状態のホースの配索は図のようになります。





重要

- 作業状態にもどし施肥作業するときは、肥料がノズルから出ることを確認したのち、作業を行ってください。
- ホースの配索が図のようになっていないと、ホースが車輪に巻き込んだり、折れ曲がることがあります。
- ホースに折れやつぶれが発生すると、施肥量への影響が出る恐れがありますので、ホースの取り扱いには充分注意してください。



作業のしかた

施肥作業前の準備

■ほ場の準備

・通常の乗用田植機で田植え作業する場合とほ場条件は変わりませんが特に次の点に注意してください。

長いままの切ワラはノズルに引掛かって溝が掘られることがありますので「切ワラは5cm以下」にします。

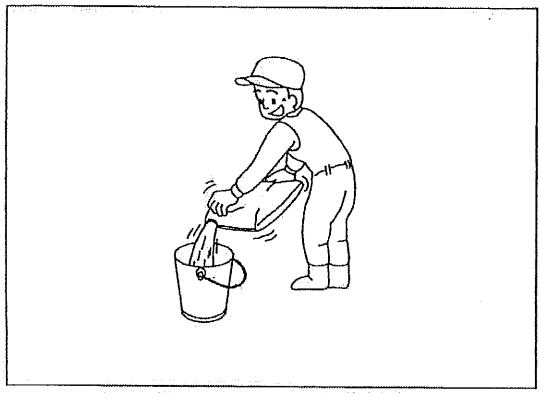
■肥料の準備

・ペースト肥料は1袋20kgが段ボール箱入りで販売されています。

・施肥計画に基づき、ほ場の面積と必要施肥量を計算の上、必要量よりやや多めに準備します。（肥料準備量は施肥量の決定の項を参考にします。）

・長く放置していたペースト肥料はうわずみができることがあります。その時は袋をころがすようにしてよくもみほぐします。

・ペースト肥料の内容器は樹脂フィルム製で固定しにくく不安定ですので下図のようなバケツに一度移し替えてから、施肥機のタンクに注入すると、ほ場でも安全、かつスムーズに行えます



取扱いのポイント

・指定ペースト肥料以外の肥料を使用された場合のトラブルについては保証いたしません。

・施肥計画（施肥成分、量、位置、時期等）について詳しくは地域の指導機関にご相談ください。

・もみほぐしが不充分だと肥料が流れないことがあります。タンク内のコシ網を使用し、そのコシ網を肥料がスムーズに流れるように十分もみほぐしてください。

・ペースト肥料に異常なかたまり等があるときには、ペースト肥料の「お買いあげ先」にご相談ください。

・肥料が目に入ったときには、すぐに洗浄して医師の手当を受けて下さい。

・肥料が顔、手足、衣服等に付着したときはすぐに水で洗い流してください。

・肥料補給時に機械に肥料がこぼれたときは早めに水で洗い流してください。
時間がたつとペースト肥料が固まり落ちにくくなります。

・ペースト肥料は、その性質上、長く保存すると結晶を生成することがありますので、前年度に使い残したペースト肥料は200～300倍に水で薄め、液肥として畑作物に使用してください。

重要

●もしこれを怠ると予定量の施肥ができなかったり、詰まりの原因となります。

■施肥量の決定

● 減肥の基準
ペースト施肥機を使うと、局所施肥のため吸収率が高く20～30％の減肥が可能です。

「慣行の施肥法との比較」

・ 慣行の施肥で ---------- **窒素成分量5kg／10a(元肥＋中間施肥)としていた場合**

・ ペースト施肥機の場合 ---------- **減肥率を20％とすると、慣行の80％でよいので、窒素成分量**

5kg／10a×0．8＝4kg／10aとなる。

慣行の減肥量(中間施肥も含む)に比較して、窒素成分量で「20～30％」で減肥になります。

慣行の窒素成分施肥量	ペースト肥料標準施肥量率
6kg／10a未満の場合は	約20％の減肥
6kg／10a以上の場合は	約30％の減肥

「窒素成分量計算法」

N．P．K＝12－12－12 の肥料を10a当たり40kg施肥した場合、窒素成分が12％なので

40kg×0．12＝4．8kg／10a

となり、窒素成分で4．8kg施肥されたことになります。

●施肥量の目安表

（下表は肥料成分12-12-12の場合を示す）

施肥量調節レバーの組合せ	副変速	主変速	窒素成分施肥量（ペースト肥料量）kg/10a			
			標準ペースト			
			B型を除く（標準施肥仕様）		B型（減量施肥仕様）	
			条間30cm	条間33cm	条間30cm	条間33cm
	低	1	2.4(20)	2.1(18)	1.6(13)	1.4(12)
		2	2.6(22)	2.4(20)	1.7(14)	1.6(13)
		3	2.9(24)	2.7(22)	2.0(16)	1.8(15)
		4	3.3(28)	3.0(25)	2.2(18)	2.0(17)
	中	1	3.6(30)	3.3(28)	2.4(20)	2.2(18)
		2	4.0(33)	3.6(30)	2.6(22)	2.4(20)
		3	4.5(38)	4.1(34)	3.0(25)	2.7(23)
		4	5.2(43)	4.7(39)	3.4(28)	3.1(26)
	高	1	5.6(47)	5.1(43)	3.7(31)	3.4(28)
		2	6.2(52)	5.6(47)	4.1(34)	3.7(31)
		3	7.0(58)	6.4(53)	4.6(38)	4.2(35)
		4	8.0(67)	7.3(61)	5.3(44)	4.8(40)

●使用するペースト肥料の肥料成分から「施肥量の目安表」より施肥量調節レバーの主変速レバー、副変速レバーの位置を決めてください。

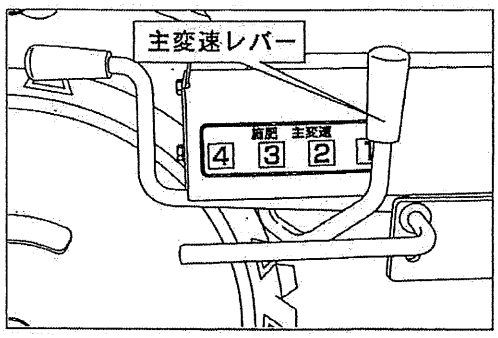
●標準ペーストの肥料成分10-16-12を使用する場合の窒素成分施肥量は、（ ）内ペースト肥料施肥量の10%となります。

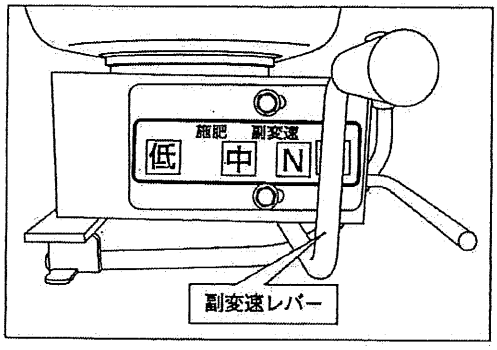
■施肥量の調節

(1) 植付部をいっぱい上げ、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にしてください。
(2) 本機の副変速レバーを「ＰＴＯ」の位置にし、ブレーキペダルをゆっくり操作してロック解除してください。
(3) 植付けを「入」にし、主変速レバーを前進１段目に操作してください。
(4) 施肥調節レバーの副変速レバーを「中立」以外の希望の位置にゆっくり操作して切り替えてください。
(5) 施肥調節レバーの主変速レバーを希望の位置にゆっくり操作して切り替えてください。
(6) ペーストの施肥ポンプが駆動しているのを確認してください。

・実際の施肥量は、ペースト肥料やほ場条件により多少変わります。

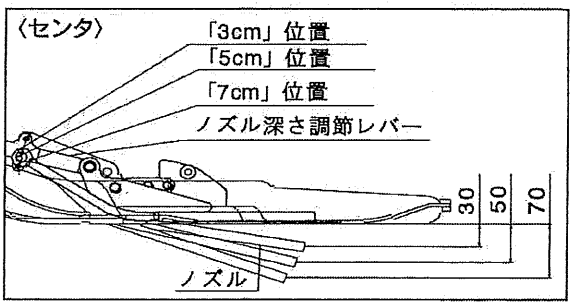
> **⚠ 警告**
> 施肥量の調節は、平坦で広くて明るい場所で操作してください。





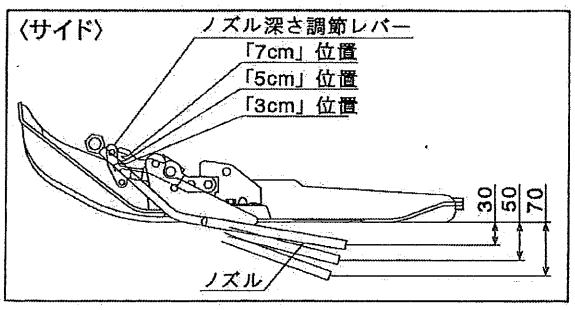
■ノズル深さ調節

> **⚠ 警告**
> ノズル深さを調節するときは、エンジンを停止し、油圧感度調節ダイヤルを「油圧ロック」位置にしてから行ってください。



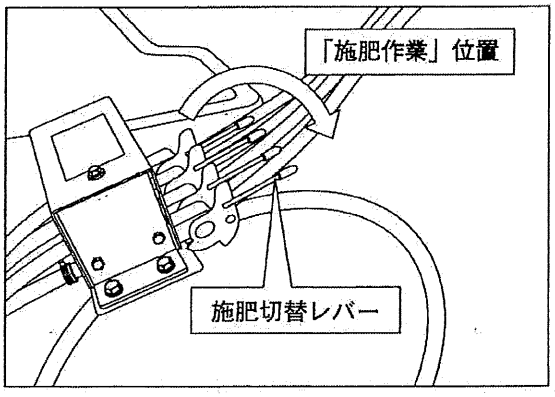
・ノズルの施肥深さはノズル深さ調節レバーで調節します

《深さ3cm》　寒冷地及び高冷地の初期育成を重視する地域
《深さ5cm》　上記以外の地域
《深さ7cm》　肥効の発生はやや遅いが肥効を長く効かせる。
《収納》(中央2条のみ)　トラック等で運搬するとき。また路上等に機械を放置して植付部を下げておく場合



■施肥切替レバー

インジケータの全ての施肥切替レバーを《施肥作業》位置ににします。



重要

●施肥量、施肥位置は、お買い上げ先にご相談ください。

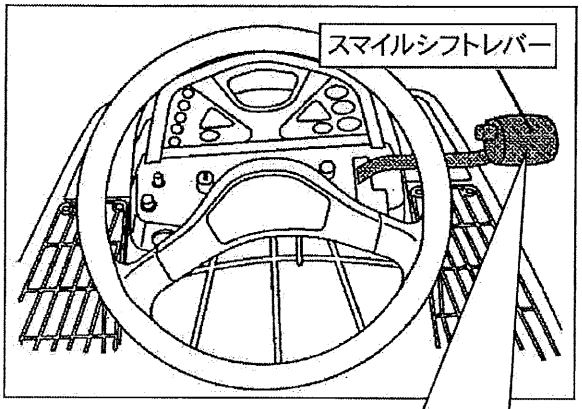
●ノズル深さは定期的にノズルゲージで点検してください。

ノズル先端がゲージに入らないときは、調節ボルトを緩めて調節してください。

施肥作業の手順

■苗の補給・肥料の補給

作業始めに苗や肥料を補給するときは、苗のせ台を端に寄せて苗を補給した後、肥料の補給を行ってください。

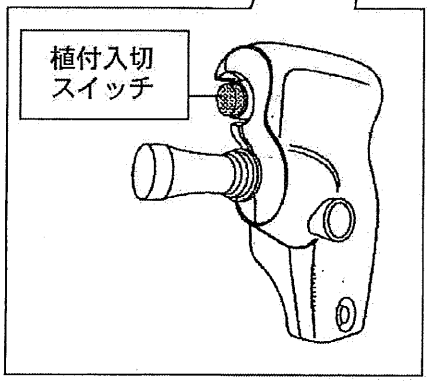


重要

●肥料タンクに肥料を入れて苗のせ台を動かすと、肥料がくり出されます。

■肥料のくり出しかた

・スマイルシフトレバーで植付入切スイッチを押すと肥料がくり出されます。
（植付入切スイッチと肥料のくり出しは連動になっています。）

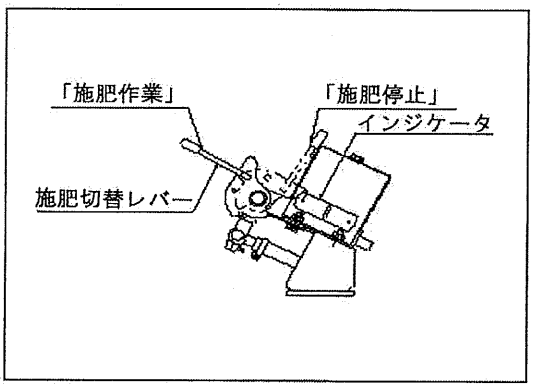


重要

●肥料タンク内にペースト肥料や水がない時は、ポンプを回転させないでください。

■施肥切替レバーの使いかた

1条単位で植付を停止する条の施肥切替レバーを「施肥停止」位置にすれば肥料が肥料タンクに戻りノズルへは流れなくなります。
また、このとき畦クラッチモニターが点灯します。



重要

●端数植えが終わったら必ず施肥切替レバーを「施肥作業」位置に戻してください。レバーを「施肥作業」位置に戻さないと肥料がくり出されません。

■作業速度

作業速度を変えるとポンプの回転速度も変わり、施肥量が多少変わる場合があります。

一定の速度で作業することをおすすめします。

■旋回時、後進時

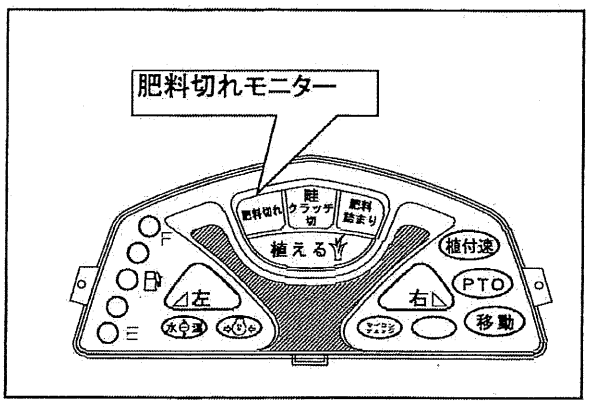
旋回時や後進時には必ず植付部を上げてください。

重要

●植付部を下げた状態で後進するとノズル内に泥が入り詰まりの原因となります。もし後進した場合には、ノズルを点検、清掃してください。

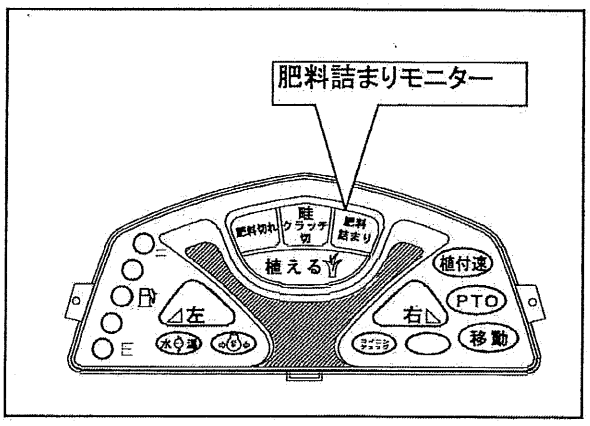
■肥料切れモニターの点灯

・肥料タンク内の肥料が減ってくるとブザーとモニターで警告しますので、早めに肥料を補給してください。



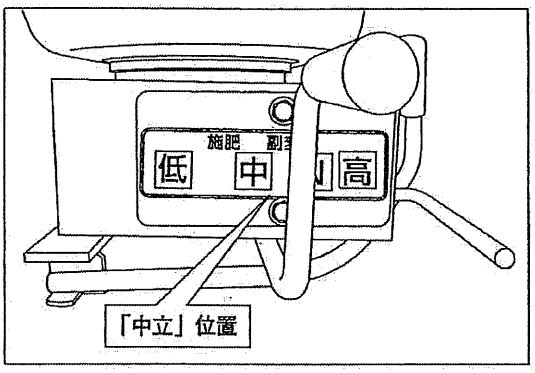
■肥料詰まりモニターの点灯

・ポンプからノズルまでのパイプ内に異物等が有り流路の一部を塞いでいますので施肥ホース・ノズル内を掃除してください。



■施肥作業をしないとき

・施肥作業をしないで、田植えをするときは副変速ﾚﾊﾞｰを『中立』位置にしてﾎﾟﾝﾌﾟの回転を止めてください。



■ほ場に機械を放置する場合

ほ場で長時間機械を放置する場合には、必ず植付部を上げて油圧感度調節ダイヤルを『油圧ロック』位置にしておいてください。

重要

●路上等に、機械を放置して植付部を下げておく場合は
ノズルと深さ調節レバーを操作し、ノズルを退避してください。

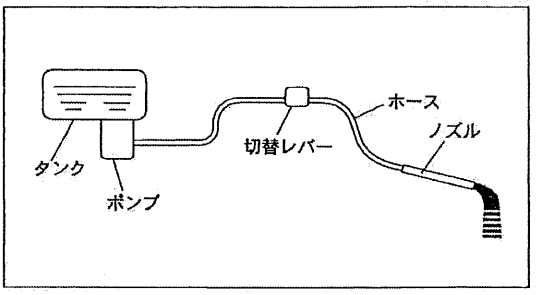
●長時間作業中断後、作業するときは、肥料がノズルから出る事を確認してから作業をしてください。

施肥作業後の手順

■作業後の掃除

(1)機械に付着した肥料及び施肥機内の肥料は、きれいに水で洗い流します。

(2)三日以上作業をしないときは、施肥機の肥料を、ドレンホースより全て抜き取り肥料タンクに水を入れて、ポンプを回転させパイプ内の肥料を洗い流します。



取扱いのポイント

・施肥機内部は、洗浄した水が無色透明になるまで水洗いしてください。

■格納時

●格納時はノズル深さ調節レバーでノズルを中央2条以外は「3cm」位置、中央2条は「収納」位置にしておいてください。

点検整備

定期的な点検整備

⚠ 警告

(1)給油、廃油、点検整備は必ずエンジンを停止して行ってください。

(2)機械は平たんな場所に置き、植付部は下降ロックをし安全を確認してください。

(3)作業中は火気厳禁

■点検・掃除一覧表

点検・掃除調整項目	点検時期		備考	参照ページ
	毎シーズン始め	不調時		
ノズル		○	変形時、毎シーズン始め点検	7
ポンプ	○		毎シーズン終り・始め点検・掃除	17, 18, 19

■シーズン後の掃除

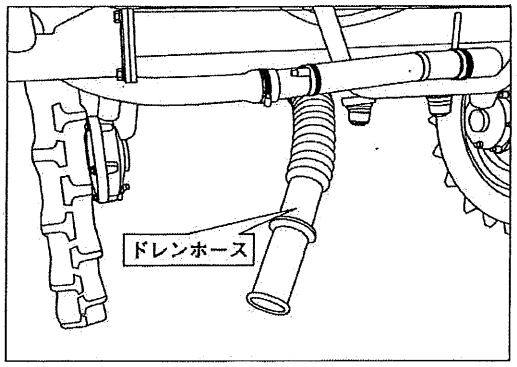
・シーズンが終わったら直ちに水洗いし、ペースト肥料、泥等を完全に洗い流します。
ペースト肥料が付着したまま長時間格納すると、機体が錆びる恐れがあります。

・施肥機内のペースト肥料を完全に抜き、内部を水洗いします。

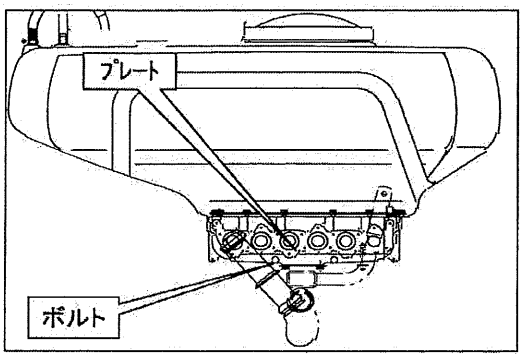
(1)ペースト肥料を左・右のタンクから抜き、バケツ等に受けます。

(2)タンクの洗浄(左・右2カ所)
肥料タンクを洗いながらタンクに水を入れます。

(3)パイプ、ドレンホースの洗浄(左・右2カ所)
ドレンホースを数回伸縮させて、パイプ内の水を動かしパイプ、ホースを洗浄します。
(水を抜いた後、再びタンクに水をためドレンホースを伸縮させる作業を2～3回くり返します。)



(4)ﾄﾞﾚﾝﾎﾞﾙﾄ(3個)を外し、ﾌﾟﾚｰﾄを外します。
残った水を抜き取ります。
(Oリングを紛失しないように注意してください。)



(5)ポンプ～ノズル間のパイプ及び戻しパイプの洗浄
・各条のポンプのパイプ接手及び戻しパイプ(タンク側)を外します。
・各条の切替レバーを《施肥作業》の位置にし、ポンプ出口のパイプから水道ホースに当てて、ポンプからノズルまでのパイプに水道水を通して洗浄します。
・切替レバーを《施肥停止》位置にし、戻しパイプに水道ホースをあてて戻しパイプを洗浄します。

(6)保管の方法
・ペースト施肥機の各パイプ及びﾄﾞﾚﾝホースは洗い水が抜けるように下につり下げておきます。
(ﾄﾞﾚﾝホースのｷｬｯﾌﾟは取り外して保管します。)
・タンク底部のプレートは外したままにしておきます。

重要

●再び機械を使用するときは、プレートを取り付けて使用してください。

不調時の処理

	状態	原因	対策
施肥モニタ	ランプが点灯し、警報が鳴り、ノズルから肥料が出ない。	インジケータからノズルまでのパイプに折れや詰まりがある。	パイプ、ノズル内を掃除する。またパイプに折れがある時は折れ部を修正する
	肥料がノズルから出ているが時々ランプが点灯し警報が鳴る	ポンプからノズルまでのパイプ内に異物等があり流路の一部をふさいでいる。	パイプ、ノズル内を掃除する。
	肥料タンクに肥料を入れてもランプが点灯し警報が鳴る。また肥料タンク内の肥料が無くなってもランプが点灯せず警報も鳴らない	タンク内の警報センサの作動不良である	警報センサのフロート作動部を掃除し、フロートがスムーズに動くようにする。

⚠ 警告

・掃除・点検・調整はエンジンを停止してください。

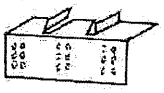
・施肥モニタが作動したときはパイプ内が高圧になっていますので、切替レバーを「施肥停止」「施肥作業」位置に何度かくり返してからパイプ・ノズル内の掃除をします。体をノズル付近から離して作業を行ってください。また、ノズル側のパイプを外すときは、切替レバーを「施肥停止」「施肥作業」位置に何度か動かしてパイプ内の圧力を下げてください。

主要諸元

■主要諸元

型式名		LR103DP	LR103DWPHB2
機体寸法（施肥機装置）	全長 (mm)	3360	
	全幅 (mm)	3460(収納時2400)	3730(収納時2600)
	全高 (mm)	1900	1680
重量	重量 (kg)	970	1170
	施肥機のみ (kg)	50	
使用施肥		ペースト施肥複合12—12—12（10—16—12）	
ポンプ	駆動方式	チェン駆動	
	変速方式	レバー式（2本）	
	変速段数位置（段）	12	
インジケーター	方式	電気式（圧力感知式）	
	表示位置	運転席パネル	
肥料タンク（L）		100（50×2箇所）	
施肥位置 (mm)		苗側方20，　深さ30，50，70	
施肥クラッチ		植付クラッチ連動	

標準付属品一覧表

形状	型式	品名	部品コード	個数
	P型	マニュアル(オペレーション／P)	9514-0000-030	1
	P型	ノズルゲージ	2694-6029-080	1

索　引

	項目	ページ		項目	ページ
あ	安全表示ラベル	1	ひ	肥料警報センサ	4
	畦クラッチモニター	4		肥料タンク	4、7
い	移動時の注意事項	8		肥料詰まりモニター	4、16
	インジケータ	5		肥料のくり出しかた	15
う	植付入り切りスイッチ	15		肥料の準備	11
	運搬中の固定方法	9		肥料の補給	15
か	各部の名称と働き	3		標準付属品	24
け	減肥の基準	12	ふ	副変速レバー	5、14
し	主変速レバー	5、14		不調時の処理	20
	主要諸元	21	へ	ペースト肥料	11
せ	施肥切替レバー	5、14、15	ほ	保管の方法	19
	施肥切替レバーの使いかた	15		保証とサービスについて	2
	施肥作業前の準備	11		圃場に機械を放置する場合	17
	施肥作業をしないとき	17		補助苗台回動	6
	施肥ホース	7		ポンプ	5
	施肥量の目安表	13			
	施肥量の調節	14			
	施肥作業後の手順	17			
ち	窒素成分量計算法	12			
	駐車ブレーキ	7			
て	点検箇所と点検の仕方	7、18			
	点検・洗浄一覧表	18			
と	ドレンホース	4、17、18			
の	ノズル	6、8、14			
	ノズル深さ調整レバー	6、14			
	ノズル深さの調節	14			
は	パイプ、ドレンホースの洗浄	17、18、19			
ひ	肥料	11			
	肥料供給口	5			
	肥料切れモニター	4、16			

純正部品を使いましょう。

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式 _____

機械番号(製造番号) _____

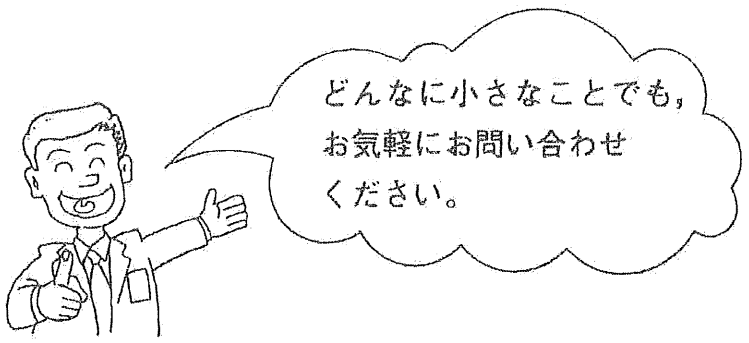
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)

No. 9514 0000 030